

波紋

1992 7 第85号

モーリン・

グループハワイ社員旅行

第一班 5月22日～5月27日

第二班 5月29日～6月3日



初めての海外旅行でいろいろな出来事が、ありました。

朝食は、決まってハンバーガーを食べ、夜ともなるとショッピングセンター回り、道を歩けば、ストリートガールに「ベビーボーイ」と声をかけられと沢山の楽しい(?)思い出ができました。帰国の時、税関で捕まってしまいました。なぜだろう?今でも不思議です。

松井 宣和

●交差点

「古参社員は新入社員教育を受ける事。」

会社訪問の時期になり、来年三月卒業の学生がチラホラやって来ます。

素麺チーム(谷澤リーダー)木村常務が、校長先生を勤めているメンバーが応対し、面接に立ち合う時は、大変気楽に座って居られる。メンバー全員が、友人をスカウトする場合、どのような説明をし、モーリンを紹介するかの、トレーニングを受けているからです。

入社一、二年のメンバーは、素直な気持ちで社内を見て、訪問者にわかりやすく説明しています。当時の自分を思い出し、不安な点の一つ一つ取り除いて、入社予定者に話しをします。逆に私の方が、感心させられる場面も多いくらい。

新入社員を迎える先輩社員の皆さん特に、古参社員と呼ばれる人達、あなた達の言葉、行動、思いやり、気働きで若い社員の意欲が、能力が、導き出される事を十分に認識してもらいたい。

自分の事だけやっていれば良いのではない。自分の立場、役割りについて今一度考えて下さい。そして、自分自身を変化、変身する事を希望します。

新入社員を迎える度にしゃんとしなければならぬのは、古参社員の方です。

新入社員教育は、新入社員の入社ごとに先輩社員が受けるべきである。

森 信之

トシ君の一方通行

- ① 鴨ナンバ頼んで何故ニワトリ？
 ② チャーシューメンで何故煮豚？
 ③ ギャルとモリの差が何故海苔だけ？
 ④ 手打ちの店で何故手打ちでないの？
 こだわってないよ、嘘つくなど言ってるだけ。頑張りますと言って何故頑張りたくないの故言いつけるの、ヤルと言って何故やらないの。
- これだけ新人がいて、これだけ景気が悪くて、何故パターンが変わらないの？
 変わらなくていいのは、基本だけ。挨拶しなさい。聞こえる声で話して下さい。電話をとったら必ず「森松の〇〇です」こういう基本は変わらなくて宜しい。
- でも、得意先・仕入先の状況が常に変化し、そして景気が常に変化し、情報が常に変化して、パターンが変わらないのはおかしいよ。
- ①から④迄は全く関係ないな、一体何が言いたいんだ。

木村英利

森松クインテッド

重い槍

『思いやり、というものは、示したら山彦みたいに返ってくる。一度でだめなら二度、三度と示す。その間に必ず返ってくる。』
 以前、読んだ本の中にあつた言葉です。その前後の内容も関係するでしょうが、結構、グツとくるものがありました。

寅さんやサザエさんの様な下町の人情話みたいな物が永く人々に親しまれるのも、本来人間の心の中には、思いやりというものが満ちあふれていて、誰もがその波動に共鳴してしまふのだと思います。しかし文明と経済の波に翻弄されて、波動が伝わりにくい社会になってしまい、むしろ金銭に共鳴することの方が人間らしいと思われてしまうのが現実です。私も金銭にはしつかり共鳴してしまふので、あまりきれいごとは言えませんが。

たちの悪い事に、これが会社組織となると金銭に地位がからんで、ますます思いやりというものが危うい状況になるらしいです。何が本物で、何が嘘の思いやりか見分けがつきにくくなる。本人が思いやりを示しているつもりが、相手にとっては違う事が多々生じてくる。相手の立場というものを理解する事も、思いやりの仲間であると思います。次の言葉は、その本の中にあつたものです。

「会社が腐るのは、あくまで上からです。下の人は毎日、活動して刺激を受けているので新陳代謝があつて腐る事はないのです。新陳代謝のある人たちの情報が、本当に会社の為になる情報です。その情報を得る方法は、やはり思いやりしかないでしょう。」

思いやる気持ちには、思やる気持ちがございます。会社よりもっと大事なのは、家庭を思いやる気持ですね。 牧野光昌

喜怒哀楽

「コーチャン」

新しい町に住んで4年程になるが、私は、なじみの床屋さんがない。別にこだわる訳ではないが、待つのがいやな為、ついつい、すいている店を選んでしまう。

そんな訳で先般、裏通りにある小さな床屋さんへ入った。そこのご主人を見た時「あれつ」と思った。それは、私が幼小から小学生の頃まで通つた近所の床屋さんで、修業として勤めていたお兄ちゃんに似ていたからだ。当時私を「コーチャン、コーチャン」とよくあやしてくれた人でよく覚えてる。何げなく奥さんと世間話しをしていたら、やはりそうであつた。10年程前に独立し、こちらに移つたそうだが、私は、うれしく、なつかしく思っていたが、ご主人は、無言のまま、黙々と私の髪を切っている。20年近くも前の事だから覚えていないのかな、と少々残念に思つた。

仕上も終わり、お金を払う時にそのご主人、ニコッと「コーチャン、相変わらず頭がいがあるね、苦労したよ」と一言。私、思わず苦笑い。どうやらなじみの店ができた様だ。

安井浩二

豊作チームの 最近の動向

豊作会も二回を終えました。

初回で皆に現在の役割、個人目標を具体的に発表させる事により、これから自分が何をしなければいけないか考えさせて、二回目のテーマ「個人目標何処まで出来たか」を発表させる事により、目標に向って行動させ、皆を少しでも成長させようとして下さっています。

これからも目標に向って努力し、来年五月一日に無事卒業出来るように頑張っていけます。その時、自分がどのくらい成長しているのが楽しみです。

サブリーダー・岩間 正美

人員配置・田井村リーダー・岩間サブリーダー・大橋さん・下垣さん・坪井さん・高橋さん・成瀬さん・加藤さん・村田さん・栗脇さん



なんでも

BEST 3

○「ふり」の上手な人

1位 松井さん

(忘れたふり、聞こえないふり、一生懸命なふり、忙しいふり。)

2位 該当者なし

○あてにしているとはまる人

1位 松井さん

(頼むと心良く返事はするが夜になると「忘れました」といって、結局自分でやらなければならなくなる)

○未来の小錦さん?

1位 横山次長

2位 吉岡課長

3位 後藤さん。

○ハワイで良い思い出を作った人

1位 T・Y

(海でおぼれそーになった。射撃で天井を的にしてしま)

2位 N・M (いけない本を)

T・T (もちこもうとした。)

3位 K・S

(不審な人物として調べられた。)

味の変化と会社の中

日頃の生活の中で頂く食事方法(食べ方は、色々ある。

例えば、御飯にマヨネーズ、バナナにマヨネーズ等、まあ会社の中にも、このマヨネーズ好き(中毒)の人もいれば、また逆に嫌いな人もいます。

料理前の材料は、まるで当社の個性そのものである。しかし、調理方法により味も良くもなれば、悪くもなりうる。つまり、一つのものに対して、味わいというものは、色々に変化しうる。まるで四季のように……。

つまり、日頃同じような事をしていっているように感じられる日々も、実際には違いは生じてくるものである。

まあ、記録に残して振り返ってみると、おもしろい事が見付かるかもしれない。

西脇 修



今月の社内行事

7月3日 加藤先生来社

4日 第一土曜日休み

5日 坂柳さん誕生日

7日 編集会議

11日 第二土曜日休み

13日 素麺会 十七時半より

15日 改善審査委員会
十八時より山口部長

栗脇さん誕生日

17日 ビア・パーティー

18日 生産部門休み

販売部門交替休み

西脇さん誕生日

20日 テニス
丹後公園 A・B面

21日 生産会議

24日 豊作会 十八時より

25日 営業会議 十時より

経営会議 十二時より

販売部門交替休み

26日 谷澤さん誕生日

27日 岡田さん誕生日

31日 蓮根会 十八時より

テニス

丹後公園 A・B面

五代目編集長挨拶

先月の波紋6月号より、編集長をさせて頂くことになりました谷澤享です。私のようないたらぬ者が編集長という大役をおおせつかり、少々とまどってはいますが、役を引き受けた以上一生懸命頑張る所存です。

私はマンネリ化が嫌いなたちで、早速新しい企画「おばあちゃんの知恵袋」を載せてみました。これはあるものにと味加えると、もっと便利に事がはこぶ、というものです。このように改善できるものは改善し、今までより楽しく、ためになる「波紋」にできたらこれ幸いです。

今後共、「波紋」の御愛読、宜しく御願ひ致します。

谷澤 享



おばあちゃんの知恵袋



★ビニールの
今回は、森松のビニールを使つたものを2つ紹介します。

折リ目は熱湯でとる
ビニール製のテブルクロスはシワや折リ目がつくとなかなかやつかい。アイロンをかけるわけにはいかないでな。そんなに熱湯にしぼしつけ、そのまま広げて干せば、シワや折リ目はパツチリじゃ!

★ビニール一枚で

風呂を早くわかす
風呂をわかすガス代はバカにならない、そこで、水面を大きなビニールで覆ってしまえば、熱が逃げず、ずいぶん早くわくものじゃ。また、わいたあともお湯が冷めにくいから、わかす手間がはぶけ重宝じゃ!

編集後記

暑さの厳しい時期となつてきました。

やっと仕事の要領もわかりかけ、森松の人々と親しみあえるようになった今、仕事の楽しさがわかりました。五月の最後には、ハワイ旅行にも連れていって頂き、今の私には夢のような旅行でした。私は泳ぎは苦手ですが、ハナウマのような、透き通つて魚が見えるような海に浸るのが一つの夢でして、それが実現出来たのでとてもよかったです。いろいろ楽しい思い出をつくらせて頂いたの、その分仕事の方でも頑張っていきます。

加藤 公江

編集発行者
森松株式会社

発行責任者
谷澤 享
平成4年7月1日
第85号